令和4年8月10日開催

佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略　事業評価・検証委員会

佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業
地方創生交付金事業　評価・検証シート
（令和３年度事業）

目次

・基本目標1「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、まちの未来を担う人材を育成する」　…P1～P12

・基本目標2「誰もがいきいきと安心して暮らすことのできるまちをつくる」　…P13～P36

・基本目標3「町民の生活を支える産業を持続・発展させる」　…P37～P48

・基本目標4「まちの魅力を発信し、新しいひとの流れとつながりをつくる」　…P49～P62

・地方創生推進交付金事業　…P63～P66

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標1】

事業番号	1 － 3 － ◆1	担当課	多世代包括支援センター 住民福祉課	担当班	子育て世代支援センター 福祉班
事業名	育児支援事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「医療・福祉」が充実したやさしいまち	会計	一般会計		
戦略目標	安心して出産・子育てができる環境をつくる	款	4	衛生費	
法令根拠条例等		項	1	保健衛生費	
個別計画		目	7	母子保健事業費	

1　事業内容

【行動指針】

・妊娠、出産、子育てについて、個々の希望や状況に応じた選択ができるように、切れ目ないサポート体制を構築するため、佐々町子育て世代支援センターを設置し、子育て世帯の不安解消等を図ります。

【事業概要】

妊娠期からの支援として一般不妊治療及び特定不妊治療の助成を実施しました。
また、子育て世代支援センターにおいて、全妊婦訪問を実施するとともに、産後ケアを継続して実施することで関係機関との連携のもと、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援を提供し、子育て世帯の不安解消を図りました。

事業名	R2(人数)	R3(人数)
妊産婦相談	201人	273人
妊婦健診	1,548人	1,507人
母親学級	6人	11人
新生児聴覚検査	125人	120人
不妊治療(特定・一般)	11人	12人・15人
子育て健康相談	792人	585人
療育専門相談等	107人	157人
訪問指導	507人	596人
お遊び教室	68人	34人
1歳6ヵ月児健康診査	143/145人	140/153人
3歳児健康診査	165/177人	135/140
乳児健診(個別)	171人	127人
乳児健診（集団）	89人	123人
ペアレント・トレーニング	20人	12人
5歳児健康診査	170人	119人
視聴覚機能測定検査	9人	3人
幼児通級教室	56人	71人
産後ケア事業利用件数	－	88件

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		1,420,000	1,220,000	1,646,148	2,703,000
財源	国庫支出金			246,000	276,000
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	1,420,000	1,220,000	1,400,148	2,427,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	子育て世代支援センターにおける相談件数【総合戦略】【単】	－	件	目標	750/年	750/年	750/年	750/年	750/年	105%
				実績	788	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑妥当である ☐検討の余地がある ☐検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑妥当である ☐検討の余地がある ☐検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑妥当である ☐検討の余地がある ☐検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑目標を達成している ☐目標をやや下回った ☐目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑適切である ☐改善の余地がややある ☐改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑適切である ☐改善の余地がややある ☐改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑効率的である ☐改善の余地がややある ☐改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑適切である ☐改善の余地がややある ☐改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑適切である ☐改善の余地がややある ☐改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
育児支援事業として、不妊治療及び産業ケアの実施により、育児支援に資することができていると評価し、今後も事業維持が必要と判断します。	評価の結果	A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持（○）　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標1】

事業番号	1 － 3 － ◆1	担当課	多世代包括支援センター 住民福祉課	担当班	子育て世代支援センター 福祉班
事業名	育児支援事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「医療・福祉」が充実したやさしいまち		会計	一般会計	
戦略目標	安心して出産・子育てができる環境をつくる		款	3	民生費
法令根拠条例等			項	2	児童福祉費
個別計画	第2期“さざっ子”育成プロジェクト		目	1	児童福祉総務費

1　事業内容

【行動指針】
・妊娠、出産、子育てについて、個々の希望や状況に応じた選択ができるように、切れ目ないサポート体制を構築するため、佐々町子育て世代支援センターを設置し、子育て世帯の不安解消等を図ります。

【事業概要】
＜住民福祉課＞
○子育て支援体制
・佐々町の子育て家庭の親子が気軽にかつ自由に利用できる場として週3日（火・水・金）、福祉センター1階にて相互交流を行う場所（ぷくぷく）を開設。運営を佐々町地域婦人会へ委託し、子育ての相談や子育て世帯向けの講習会やイベントを実施しました。本来であれば、イベント等を通し、子どもを含む子育て世代と高齢者世代の交流を実施しておりますが、コロナ禍により、世代間の交流が実施できませんでした。
（R3利用延べ人数　親1,020人、子1,181人）
（R3決算額　2,440,141円　　国1/3、県1/3、町1/3）

・保育所等に在園しておらず、一時的に保育が必要な未就学児について、佐々町地域婦人会へ委託し、一時預かり（ありす）を実施しました。
（R3利用延べ人数　144人）
（R3決算額　914,840円　　国1/3、県1/3、町1/3）

・口石学童保育館、口石小学校空き教室、佐々学童保育館、佐々小学校空き教室において、放課後等に保護者の看護を受けることができない児童の預かりを行ないました。
土曜日、長期休み等については、午前7時半から、午後7時までの預かりを行いました。
（R3児童数　口石学童115人、佐々学童76人）※児童数は月初人数の年平均
（R3決算額　39,496,000円　　国1/3、県1/3、町1/3）

・町内の２園に委託し、病後児の預かりを行い、働く保護者の支援を行いました。
（R3延べ利用人数　155人）
（R3決算額　10,753,000円　　国1/3、県1/3、町1/3）

・令和３年度から西九州させぼ連携事業において、近隣市町の対象児童も預かり、保護者も預けやすい園に預けることが可能となりました。
（R3広域利用　広域利用延べ人数48人、広域受入延べ人数8人）
（R3歳出負担金決算額　463,998円　歳入負担金決算額　148,105円）

・ファミリーサポート事業について、佐世保市との広域連携事業の協定を締結しています。（Ｒ１～）
佐世保市のファミリーサポートセンター主催の講座に、佐々町の子育て支援拠点（ぷくぷく）のスタッフも参加しており、子育て支援拠点の充実、質の向上を図っています。
（R3決算額　なし）

2　コスト　（単位：円）

区分		Ｒ元決算	Ｒ２決算	Ｒ３決算	Ｒ４予算
事業費		47,045,132	48,826,915	54,067,979	81,350,000
財源	国庫支出金	13,230,000	14,363,000	16,123,000	25,430,000
	県支出金	13,226,000	14,793,000	16,574,000	25,430,000
	その他特定財源	11,321,900	10,059,200	10,912,905	227,000
	地方債				
	一般財源	9,267,232	9,611,715	10,458,074	30,263,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	子育て世代支援センターにおける相談件数【総合戦略】【単】	－	件	目標	750/年	750/年	750/年	750/年	750/年	105%
				実績	788	－	－	－	－	
成果	就学前児童数（0～6歳）【総合戦略】【単】	1,089人（令和2年3月時点）	人	目標	増加	増加	増加	増加	増加	92%
				実績	1,005	－	－	－	－	
成果	療育相談事業の利用者数【単】	68人/年	人	目標	120/年	120/年	120/年	120/年	120/年	113%
				実績	136	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である	2
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☐ 妥当である	
		☑ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☐ 妥当である	
		☑ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	2
		☑ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☐ 適切である	
		☑ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である	
		☑ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
一時預かり（ありす）については、一定程度ニーズに対応できたと考えます。 子育て支援拠点（ぷくぷく）についても、一定のニーズに対応できていると考えられるものの、相談拠点としての機能の充実を図ることや、子育て世帯向けの講座など、拠点の役割について改めて検討し、拡充する必要があると考えます。また、誰もが利用しやすい取り組みの検討が必要と考えます。		B	**課題が少しあり業務の一部見直しが必要**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
・拡充も必要だが、財政面で高齢者事業などに影響が出ないように計画していってもらいたい。 ・子育て支援拠点（ぷくぷく）について、父兄の相談機能や勉強会実施などの検討事項について、改善に努めて、よりよいものにしてもらいたい。
委員会評価
（現状維持）・見直し・廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標1】

事業番号	1 － 3 － ◆2	担当課	住民福祉課	担当班	福祉班
事業名	子育て世帯への負担軽減事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「医療・福祉」が充実したやさしいまち		会計	一般会計	
戦略目標	安心して出産・子育てができる環境をつくる		款	3	民生費
法令根拠条例等	佐々町子どものための教育・保育給付に関する条例施行規則 佐々町暮らしを守る子育て世帯への保育料軽減事業実施要綱 佐々町福祉医療費に関する条例		項	1	社会福祉費
個別計画			目	1	社会福祉総務費

1　事業内容

【行動指針】

・妊娠期、子育て期に係る世帯の費用負担に対し、助成を行います。

【事業概要】

●保育料軽減事業

令和元年10月から保育料無償化が実施されておりますが、子ども・子育て支援の一環として、無償化対象児童以外の保育料を国基準より低く設定し、保護者の保育料負担を軽減しました。
0歳児から2歳児のひとり親や低所得世帯について、保育料を免除し、さらなる負担軽減を図りました。

・令和元年度　国基準137,332千円に対し、町基準101,091千円とし、36,241千円の負担軽減を行いました。
・令和２年度　国基準90,867千円に対し、町基準64,384千円とし、26,483千円の負担軽減を行いました。
・令和３年度　国基準93,560千円に対し、町基準59,867千円とし、33,693千円の負担軽減を行いました。

※歳入の減

さらに令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、保護者が負担した保育料分を「暮らしを守る子育て世帯への保育料軽減事業補助金」として、交付しました。

・令和3年度補助金支出額　48,716千円（延べ人数2,424名）

（参考）利用児童数　R1.4.1　586名
R2.4.1　594名
R3.4.1　610名
R4.4.1　588名

●福祉医療助成

乳幼児などの福祉医療に加えて、町独自で高校生までの医療費（1医療機関あたり月ごと自己負担額1日800円、2日以上1,600円を控除した額）を助成しました。
乳幼児については、長崎県内全ての医療機関を受診した場合において現物給付による助成が可能であり、町独自で実施している小・中・高校生に係る医療費の助成については、佐々町、平戸市、松浦市、小値賀町内の医療機関等を受診した場合において、現物給付による助成を行いました。現物給付以外は、償還払いにより給付を行いました。

区分	R2		R3		
	件数	決算額	件数	決算額	
乳幼児	13,506件	18,139,835円	14,171件	20,079,205円	（県1/2、町1/2）
小学生	7,017件	11,053,669円	7,248件	11,985,880円	（町単）
中学生	2,037件	3,473,072円	2,382件	4,707,812円	（町単）
高校生	1,130件	2,472,643円	1,497件	3,488,121円	（町単）
母子母	1,080件	2,770,090円	1,341件	3,694,498円	（県1/2、町1/2）
母子子	1,138件	2,013,016円	1,269件	2,132,269円	（県1/2、町1/2）
父子父	7件	49,830円	4件	38,860円	（県1/2、町1/2）
父子子	20件	56,884円	57件	96,521円	（県1/2、町1/2）
計	25,935件	40,029,039円	27,969件	46,223,166円	

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		46,671,434	40,029,039	94,938,686	48,852,000
財源	国庫支出金			26,225,700	
	県支出金	12,196,600	11,490,307	13,009,693	13,500,000
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	34,474,834	28,538,732	68,712,986	35,352,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☐ 効率的である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
保育料軽減については、無償化に加え国基準より低い保育料に設定したことにより、保護者の負担軽減を行うことができた。また、コロナの交付金を活用した保育料軽減により、保護者の負担を軽減することができたと考える。 福祉医療については、高校生までの医療費を助成することで、子育て世帯の医療費の負担軽減を行うことができた。制度の周知もできていると考える。 改善点としては、小・中・高校性の現物給付化のための佐世保市との協議があげられる。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
福祉医療助成の小・中・高校生の現物給付化について、佐世保市医師会との協議を進めていただきたい。
委員会評価
（現状維持）　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標1】

事業番号	2 － 1 － ◆1	担当課	教育委員会	担当班	総務班
事業名	さざっ子学力アップ事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
	基本目標	「教育・文化」で輝くまち		会計	一般会計
	戦略目標	「生きる力」を育む学校教育を充実する		款	10 教育費
法令根拠条例等				項	1・2・3 教育総務費・小学校費・中学校費
個別計画		第二期　佐々町教育振興基本計画		目	2・1・3・4 事務局費他

1　事業内容

【行動指針】

・21世紀を担う子どもたちの時代のニーズに応じた学力の定着・向上を図ります。また、ALT（外国語指導助手）を活用し、グローバル人材の育成を目指した英語教育を推進します。

【事業概要】

○ＡＬＴ配置（決算額　9,900,000円）

２名のＡＬＴを配置（委託）し、小・中学校において教職員と連携して授業に取り組みました。
小学校の外国語教科化により、児童が英語に親しむための一助になりました。また、小中学校のＡＬＴも含めた小中の連携を意識した研修会を開催したことによって小中のスムーズな教科指導連携が構築しつつあります。その結果、中学校の英語力向上に効果を上げています。

○学力向上対策事業（決算額　1,948,260円）

小・中学校全児童・生徒に対し、標準学力調査を実施しました。
小１から中２までの児童・生徒個人個人の累年比較を行うなど、調査結果を各校で分析し、課題を洗い出しながら教職員が授業の工夫をする取組も出てきています。また、意識調査も同時に行っており、児童生徒個人の内面的な把握を行ったことで、学習意欲向上のきっかけにもなりました。今後も継続することによって、全国学力調査での目標達成につなげていきたいと考えています。

学校名	人数	実施日
佐々小学校	375	令和4年1月20日・21日
口石小学校	526	令和4年1月19日・20日
佐々中学校	261	令和4年1月12日・13日（1・2年生）

○学力向上支援員の配置（決算額　5,142,683円）

・算数、数学、国語を中心として授業の中で担任とのＴＴ指導等に活用したことで、個別指導等やきめ細かな指導の一助となりました。また、練習問題等に日常的な丸付け及び評価を行うなどの学習支援も行いました。
・教材・教具の作成支援や、学習内容の習熟を図るための資料作成等の校務支援を行いました。

○サポートティーチャーによる学力向上支援（決算額　58,000円）

・新型コロナウイルス感染症の影響により、外部人材の活用が難しい状況でしたが、できる限り退職校長会や地域住民等を活用して、放課後や夏季休業中を活用して学習支援を行いました。
また、長崎県立大学生のサポートティーチャーについても、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣することが出来ませんでした。
・学習の到達度が低い児童に対して個別指導を行いました。
・算数科や国語科において、Ｔ・Ｔの形で学習支援を行いました。

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		16,408,675	16,857,794	17,048,943	18,216,000
財源	国庫支出金				
	県支出金	698,000	363,000	353,000	325,000
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	15,710,675	16,494,794	16,695,943	17,891,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	学力テスト全国平均比較【総合戦略】【単】	全国平均以下	－	目標	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	100%
				実績	全国平均以上	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
全国的には平均以上となっていますが、教科によっては平均を下回っている現状にあるため、タブレット端末等のＩＣＴ機器を活用するなどしてさらなる学力向上を図っていきたいと考えます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
英語力向上も必要だが、国語力不足で数学やその他の科目の問題の内容が理解できずに解けないといった問題もあると聞くので、国語力向上のフォローアップもお願いしたい。
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標1】

事業番号	2 － 1 － ◆2		担当課	教育委員会	担当班	総務班	
事業名	小中学校キャリア教育推進事業						
総合計画上の位置づけ	基本目標	「教育・文化」で輝くまち	予算科目	会計	一般会計		
	戦略目標	「生きる力」を育む学校教育を充実する		款	10	教育費	
法令根拠条例等				項	2	小学校費	
個別計画		第二期　佐々町教育振興基本計画		目	2・4	教育振興費	

1　事業内容

【行動指針】
・総合的な学習の時間を活用し、地元の職場見学や職場体験を行います。また、中学生を対象とした、町内に居住する就業者等を校内へ招へいした「生き方講座」を実施します。

【事業概要】
○職場見学・職場体験（決算額　なし）
　社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる資質・能力を育むこと目的として、小学校では町内の公共機関やスパーマーケット等の見学を行いました。中学校では町内の各事業所で職場体験学習を実施しました。

○講話の実施（決算額　60,000円）
　佐々小学校ではクラブ活動での地元陶芸家を招いての授業を行いました。口石小学校では地元農家の協力を得ながら田植え活動や稲刈りなどの農業体験学習を通し、農業に対するキャリア教育を実施しました。また、佐々町婦人会を招いての梅干しづくり体験等も行いました。
　佐々中学校ではコロナ禍の影響もあり、「生き方講座」は実施できませんでしたが、以前は、町内に居住する就業者等を招いての講演会を開催し、キャリア教育を行っております。このような活動を通して、児童生徒に将来の職業について考える機会を与えることができています。

※キャリア教育…望ましい職業観・勤労観、職業に関する知識や技能を身に付けさせ、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育。

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		70,000	60,000	60,000	90,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	70,000	60,000	60,000	90,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】【単】	－	%	目標	100	100	100	100	100	94%
				実績	94	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
中学校は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、実施できなかったが、小学校では、児童生徒に将来の職業について考える機会を与えることができました。 地元出身者による講話は、子どもたちの目標や夢に向けて励みとなっており、キャリア教育の推進が図られており、引き続き実施していきたいと考えます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標1】

事業番号	2 － 2 － ◆	担当課	教育委員会	担当班	社会教育班
事業名	佐々っ子応援団推進事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「教育・文化」で輝くまち		会計	一般会計	
戦略目標	学校・家庭・地域が連携協力し子どもの教育を充実する		款	10	教育費
法令根拠条例等	社会教育法		項	5	社会教育費
個別計画	第二期　佐々町教育振興基本計画		目	10 11	佐々っ子応援団推進費 地域子ども教室推進事業費

1　事業内容

【行動指針】
・高齢者や様々な技能・経験をもつ地域住民の協力により、子どもたちに体験活動や交流活動の機会を提供します。また、登校時の見守り活動を実施し、地域ぐるみで子どもたちの育成を図ります。

【事業概要】
○佐々小放課後子ども教室の開催（決算額　なし）
　佐々小PTAが主体となり、保護者や地域の方による毎週木曜日、放課後の学習教室を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、全て中止としました。

○口石小木曜教室の開催（決算額　17,000円）
　退職校長会による毎週木曜日、放課後の学習教室を開催しました。
　例年全20回ほど開催していますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、全3回の開催となりました。

○さざっ子ワクワクまなびタイムの開催（決算額　59,490円）参加者計50名
　子どもたちの知識・見識を広めるため、小学生を対象に体験学習を開催しました。
　年間3回計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、1回を中止としました。
　・7月 ～食品サンプル作り　定員20名　参加20名
　・11月～スノードーム作り　定員32名　参加30名
　・2月 ～調理実習　定員20名　中止

○土曜学習プログラムの開催（決算額　350,000円）
　町内のボランティアへ委託し、子どもたちの豊かな社会性・創造性を培い、また、学習意欲の向上を目指すため、土曜日や夏休みなどの学校休業日に、様々な体験活動や交流活動を行いました。
　なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、計17回を実施し計15回を中止しました。
　＜さざ自然・生物学習教室＞　ボランティアスタッフ18名　参加者計133名
　・7月 ～釣り体験　参加46名
　・7月 ～生物観察・清掃活動　参加30名
　・10月～地磯観察会　参加27名
　・12月～野鳥観察会　参加30名
　・その他6回の体験活動が中止となりました。
　＜読み聞かせ＞　ボランティアスタッフ延べ20名
　・5月～2月　よっといで　お話の世界へ　5回開催　参加82名
　・その他7回の読み聞かせが中止となりました。
　＜佐々っ子スポーツ塾＞　ボランティアスタッフ18名　参加者計132名
　・5月 ～基本運動、ｻｰｷｯﾄ活動、短距離走　参加17名
　・6月 ～陸上教室（講師：田端健児氏／元ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ陸上選手）参加21名
　・7月 ～ボールレクリエーション　参加20名
　・10月～体力テスト、レクリエーション　参加15名
　・10月～ゲーム活動（ドッチビー等）　参加18名
　・11月～レクリエーション（鬼ごっこ等）　参加17名
　・12月～ゲーム活動（バドミントン）　参加15名
　・1月 ～ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ等（ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ、ﾎﾞｯﾁｬ、ｽﾄﾗｯｸｱｳﾄ）　参加 9名
　・その他2回のスポーツ塾が中止となりました。

○佐々っ子応援団の実施（決算額　440,689円）
　佐々っ子応援団（ボランティアスタッフ）の協力により、登校時の見守り活動を実施し、地域ぐるみで子どもたちの育成を図りました。

佐々っ子応援団推進費　457,689円
地域子ども教室推進事業費　409,490円

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		1,645,483	970,521	867,179	2,331,000
財源	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	426,000	289,000	259,000	402,000
	その他特定財源	0	0	0	1,000
	地方債	0	0	0	0
	一般財源	1,219,483	681,521	608,179	1,928,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	地域子ども教室参加児童数【総合戦略】【単】	674人/年	人	目標	700/年	700/年	700/年	700/年	700/年	57%
				実績	397	－	－	－	－	
成果	佐々っ子応援団見守り活動参加者数【総合戦略】【単】	70人程度	人	目標	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	100%
				実績	70	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	3
		☑ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
新型コロナウイルス感染症の影響により中止した活動もあり、地域子ども教室参加児童数の成果指標の実績は達成できませんでしたが、子どもたちの体験活動や地域ボランティアの見守り活動など、地域ぐるみによる子どもたちの育成を図ることができました。 今後も引き続き実施していきたいと考えます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標2】

事業番号	1 － 1 － ◆ 4 － 1 － ◆	担当課	多世代包括支援センター	担当班	健康相談センター
事業名	健康推進事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「医療・福祉」が充実したやさしいまち		会計	一般会計	
戦略目標	一人一人が健康づくりを進められる環境をつくる		款	4	衛生費
法令根拠条例等	健康増進法		項	1	保健衛生費
個別計画	佐々町健康増進計画		目	10	健康増進事業費

1　事業内容

【行動指針】

・町民の健康増進の意識向上につなげるとともに、まちなかと周辺の地域資源の回遊性を向上させるため、佐々川などを活かしたウォーキングコース、散策コースの周知と活用を行います。

【事業概要】

住民一人ひとりが自分の健康に関心を向け、日常生活の中で継続的に生活習慣の改善に取り組むことができるよう、健康相談や健康教育を行い、食習慣の見直しや運動習慣の普及、生活習慣病の発症や重症化予防のための健康づくりについて支援を行いました。

運動については、佐々川沿いを活かしたウォーキング、健康イベントなどを企画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和3年度は中止しました。

○さざ☆さわやかウォーキング＆ミニ食育フェア

●平成30年度　＜平成31年 3月10日(日)実施＞　参加者：113人

【内容】・「みんなで延ばそう健康寿命！体幹トレーニングでいつまでも若々しく」をテーマに、町内ウォーキングと健康運動指導士による運動実技を実施した。

・「賢い食べ方　効率よく体脂肪を減らしたい！」をテーマに、管理栄養士による講話と管理栄養士と食生活改善推進員作成のミニ弁当配布を実施した。

●令和元年度　＜新型コロナウイルス感染拡大に伴い、開催中止＞

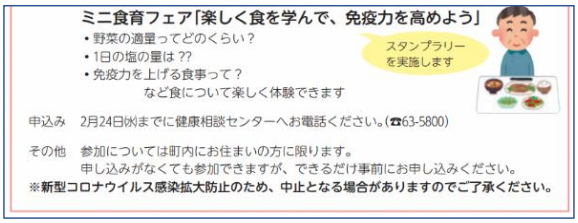
●令和2年度　＜令和3年 3月14日(日)実施＞　参加者：　30人

【内容】・「ウォーキングで免疫力を高めましょう！」をテーマに、町内ウォーキングと健康運動指導士による運動実技を実施した。

・「楽しく食を学んで、免疫力を高めよう！」をテーマに、管理栄養士と食生活改善推進員によるクイズ・スタンプラリーを実施した。

●令和3年度　＜新型コロナウイルス感染拡大に伴い、開催中止＞

【 参考 ／ 令和2年度 】



2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		0	31,000	0	33,000
財源	国庫支出金				
	県支出金		20,667		22,000
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	0	31,000	0	33,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	健康イベント参加者数 【総合戦略】【単】	113人/年 （平成30年度）	人	目標	130	130	130	130	130	0%
				実績	0	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☑ 目標を大きく下回った	2
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
佐々川沿いを活かしたウォーキング、健康イベントは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止しましたが、健康相談・教育の実施等、町民の健康増進・意識向上につながる事業の実施ができていると評価し、今後も継続して実施する必要があると判断します。		A	業務の内容は適切である

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
参加者が増えるように周知してもらいたい。
委員会評価
（現状維持）・　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標2】

事業番号	4 － 1 － ◆	担当課	保険環境課 多世代包括支援センター	担当班	環境衛生班 健康相談センター
事業名	健康推進事業				

総合計画上の位置づけ	基本目標	「医療・福祉」が充実したやさしいまち	予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	一人一人が健康づくりを進められる環境をつくる		款	4	衛生費
法令根拠条例等		健康増進法		項	1	保健衛生費
個別計画		佐々町健康増進計画		目	10	健康増進事業費

1　事業内容

【行動指針】

・町民の健康増進の意識向上につなげるとともに、まちなかと周辺の地域資源の回遊性を向上させるため、佐々川などを活かしたウォーキングコース、散策コースの周知と活用を行います。

【事業概要】

住民一人ひとりが自分の健康に関心を向け、日常生活の中で継続的に生活習慣の改善に取り組むことができるよう、健康相談や健康教育を行い、食習慣の見直しや運動習慣の普及、生活習慣病の発症や重症化予防のための健康づくりについて支援を行いました。

運動については、佐々川沿いを活かしたウォーキング、健康イベントなどを企画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和3年度は中止しました。

○さざ☆さわやかウォーキング＆ミニ食育フェア

●平成30年度　＜平成31年 3月10日(日)実施＞　参加者：113人

【内容】・「みんなで延ばそう健康寿命！体幹トレーニングでいつまでも若々しく」をテーマに、町内ウォーキングと健康運動指導士による運動実技を実施した。

・「賢い食べ方　効率よく体脂肪を減らしたい！」をテーマに、管理栄養士による講話と管理栄養士と食生活改善推進員作成のミニ弁当配布を実施した。

●令和元年度　＜新型コロナウイルス感染拡大に伴い、開催中止＞

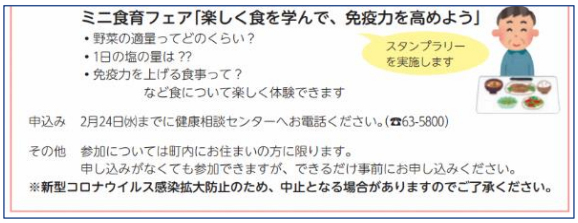
●令和2年度　＜令和3年 3月14日(日)実施＞　参加者：　30人

【内容】・「ウォーキングで免疫力を高めましょう！」をテーマに、町内ウォーキングと健康運動指導士による運動実技を実施した。

・「楽しく食を学んで、免疫力を高めよう！」をテーマに、管理栄養士と食生活改善推進員によるクイズ・スタンプラリーを実施した。

●令和3年度　＜新型コロナウイルス感染拡大に伴い、開催中止＞

【 参考 ／ 令和2年度 】



2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		0	31,000	0	33,000
財源	国庫支出金				
	県支出金		20,667		22,000
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	0	31,000	0	33,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	健康イベント参加者数 【総合戦略】【単】	113人/年 （平成30年度）	人	目標	130	130	130	130	130	0%
				実績	0	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☑ 目標を大きく下回った	2
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
佐々川沿いを活かしたウォーキング、健康イベントは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止しましたが、健康相談・教育の実施等、町民の健康増進・意識向上につながる事業の実施ができていると評価し、今後も継続して実施する必要があると判断します。		A	業務の内容は適切である

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標2】

事業番号	1 － 2 － ◆	担当課	診療所	担当班	事務班
事業名	町立診療所サービス充実事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「医療・福祉」が充実したやさしいまち		会計	診療所特別会計	
戦略目標	誰もが安心できる医療体制を整える		款		
法令根拠条例等			項		
個別計画			目		

1　事業内容

【行動指針】

・もの忘れ外来（週1回）のみとなっている町立診療所の有効活用を図るため、町民の利用ニーズや需要を勘案した専門外来を導入します。

【事業概要】

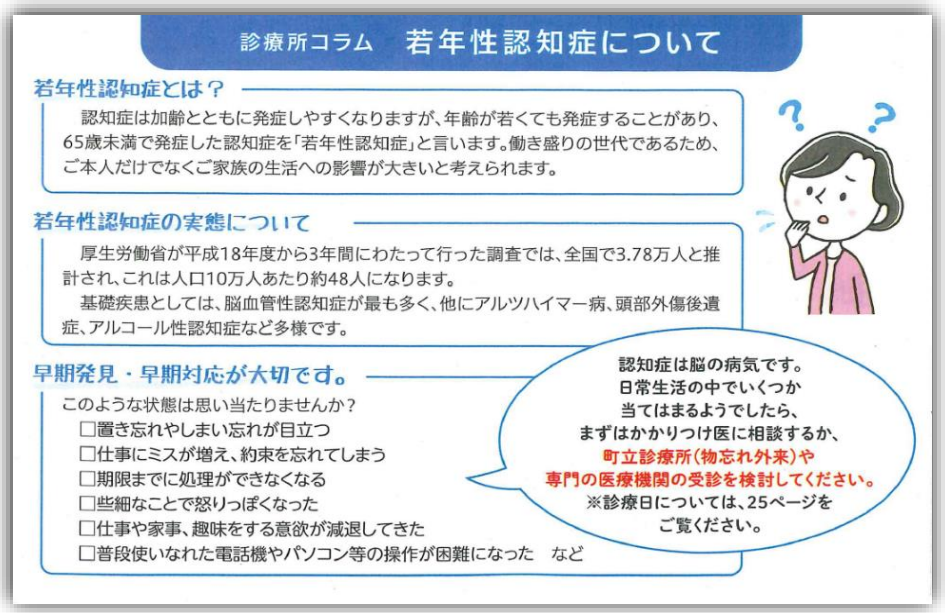
町立診療所では、「もの忘れ外来」の診療を行い、隣接する地域包括支援センターや地域医療機関と連携し、認知症の早期発見と早期治療に努めました。広報さざ12月号に「診療所コラム」として、若年性認知症についての記事を掲載し、かかりつけ医または町立診療所などの専門の医療機関を早期に受診することの重要性を周知しました。

また、住み慣れた地域で早期に療育が受けられる体制を整えるため、令和4年4月から町立診療所に「小児発達専門外来」を開設するにあたり、関係機関との協議や備品等の購入を行いました。

○もの忘れ外来受診者数

年度	診療収入	患者数			開所日数	1日あたりの受診者数
		計	新患	再診		
H29	1,327千円	371人	51人	320人	46日	8.1人
H30	1,596千円	444人	51人	393人	43日	10.3人
R1	1,405千円	404人	54人	350人	42日	9.6人
R2	1,501千円	524人	57人	467人	46日	11.4人
R3	2,133千円	623人	71人	552人	46日	13.5人

○広報さざ12月号　掲載コラム



2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		8,290,203	8,614,603	12,026,562	12,250,000
財源	国庫支出金			429,000	
	県支出金			440,000	
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	8,290,203	8,614,603	11,157,562	12,250,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	発達専門外来設置数 【総合戦略】【累】	0か所	か所	目標	－	－	－	－	1	0%
				実績	0	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑妥当である ☐検討の余地がある ☐検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑妥当である ☐検討の余地がある ☐検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑妥当である ☐検討の余地がある ☐検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑目標を達成している ☐目標をやや下回った ☐目標を大きく下回った	2
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☐適切である ☑改善の余地がややある ☐改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐適切である ☑改善の余地がややある ☐改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☐効率的である ☑改善の余地がややある ☐改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑適切である ☐改善の余地がややある ☐改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑適切である ☐改善の余地がややある ☐改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
もの忘れ外来の受診者は年間623人（13.5人/日）と過去最多となりました。新患の予約が取りづらい日もあるため、今後は地域の医療機関との連携が課題であると考えます。 小児発達専門外来については、令和4年4月開設に向けて、長崎県こども医療福祉センターとの協議や、検査用具等の備品の購入等を行いました。県北地域の療育環境整備のため、受診前の相談体制の充実や地域住民への周知を図りたいと考えます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
開催日等の広報周知に力を入れていただきたい。
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標2】

事業番号	1 － 4 － ◆1	担当課	多世代包括支援センター	担当班	地域包括支援センター
事業名	いきいき百歳体操事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「医療・福祉」が充実したやさしいまち		会計	介護保険特別会計（保険事業勘定）	
戦略目標	高齢者が自立した生活を送れる仕組みをつくる		款	5	地域支援事業費
法令根拠条例等	介護保険法		項	2	一般介護予防事業費
個別計画	第8期介護保険事業計画（令和3年度～令和5年度）		目	1	一般介護予防事業費

1　事業内容

【行動指針】
・心身のフレイル対策及び地域交流を兼ねた「いきいき百歳体操」の推進を図り、個々人の健康づくり、地域活動の活性化を行います。

【事業概要】
福祉センターの基幹型サロンである「元気カフェ・ぷらっと」及び各地区集会所で実施する地域型サロンにより、活動を始める際の立上げ支援や活動を継続するための運動の指導やその他の介護予防の取組みを紹介することで心身機能の維持・向上及び、社会参加を目的として実施しています。
　また、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」とも連携し、令和3年度より地域包括支援センター所属の作業療法士が地域サロンをまわり、高齢者の有する能力を評価し、改善の可能性を助言するなど住民主体の通いの場等の介護予防の取り組みを総合的に支援しています。

〇実施団体及び参加実人数
いきいき百歳体操実施団体　28地区
いきいき百歳体操実施人数　399名

〇いきいき百歳体操リーダー会
目的：１）地域介護予防活動支援事業（一般介護予防事業）の一環として、各町内会の活動実施を担うリーダーが集まり、参加者の様子を共有し、活動を継続する重要性を理解する。
　　２）代表者同士が悩みや問題点を共有し、町内で一体的に行う活動として認識し問題解決に向けて考え共有する場として活用するとともに、問題解決のきっかけ作りのとなる。
　　３）今後の佐々町における介護予防活動の推進について、各町内会リーダーの意見や感想などの意見交換の場とし、介護予防活動の充実を図る。

実施内容：2回／年
（1回目）「介護予防活動（運動・栄養・口腔・認知症予防・閉じこもり・うつ）の紹介、活動状況の意見交換」
　　参加者：16名
（2回目）「介護予防のポイント説明、グループワーク（活動に関する悩み事、佐々町の介護予防の推進について」
　　参加者：17名

いきいき百歳体操の様子

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		501,936	312,240	30,000	300,000
財源	国庫支出金	125,484	78,060	7,500	75,000
	県支出金	62,742	39,030	3,750	37,500
	その他特定財源	135,523	84,305	8,100	81,000
	地方債				
	一般財源	178,187	110,845	10,650	106,500

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	いきいき百歳体操に集う高齢者の割合【総合戦略】【単】	12.0%	%	目標	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	83%
				実績	10.0	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
リハビリ職による地域介護予防活動の継続支援を行うことで、多様な介護予防活動の啓発を行うことで参加者の心身機能の維持向上に繋がっています。また、活動を運営するリーダー会を開催することで、活動継続のための課題などを抽出、地域活動を担う後継者育成が必要であるなど意見交換・共有の場となった。今後は、他の事業と関連させ後継者育成における対策（リーダー会の開催、認知症施策などとの連携）を検討していきます。		A	業務の内容は適切である

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標2】

事業番号	1 － 4 － ◆2	担当課	多世代包括支援センター	担当班	地域包括支援センター
事業名	地域まるごとサロン事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「医療・福祉」が充実したやさしいまち	会計	一般会計		
戦略目標	高齢者が自立した生活を送れる仕組みをつくる	款	3	民生費	
法令根拠条例等	社会福祉法	項	1	社会福祉費	
個別計画	佐々町地域福祉計画　佐々町高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業計画	目	1	社会福祉総務費	

1　事業内容

【行動指針】

・町内会集会所を地域活動の拠点として、多世代の町民が参加、活動、交流することにより、共生社会の実現につながる「地域まるごとサロン」づくりを行います。

【事業概要】

○地域まるごとサロン
　町内会を単位とした高齢者の通いの場として定着している「地域デイサービス」について、世代を問わない「地域まるごとサロン」へ発展させ、介護・障がい・子ども・生活困窮等の属性や世代を超えた居場所づくりを推進しました。

		地域デイサービス	地域まるごとサロン
R2	開催地区	24地区	
	開催回数	168回	
	参加実人数	717人	
	参加延人数	2, 400人	
R3	開催地区	25地区	1地区
	開催回数	187回	3回
	参加実人数	720人	25人
	参加延人数	2, 449人	75人

○地域ネットワーク情報交換会
　誰もが安心して住み良い地域を目指して、町内会単位で地域の現状について情報交換会を開催し、地域関係者間の連携のもと、地域のニーズ把握および課題解決を図りました。また、地域関係者に地域共生への取組みの必要性について普及啓発を行いました。

	地域ネットワーク情報交換会
R2	4町内会
R3	26町内会

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		4, 939, 718	2, 800, 000	3, 000, 000	5, 270, 000
財源	国庫支出金				
	県支出金	2, 635, 000	2, 100, 000	2, 250, 000	3, 953, 000
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	2, 304, 718	700, 000	750, 000	1, 317, 000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	地域まるごとサロン実施 町内会数【総合戦略】【累】	0地区	地区	目標	－	－	－	－	10	10%
				実績	1	－	－	－	－	
成果	地域まるごとサロン参加者数 【総合戦略】【単】	0人	人	目標	150	150	150	150	150	17%
				実績	25	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☑ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
コロナ禍により地域デイサービスの開催頻度が減少。高齢者以外を巻き込んだ地域まるごとサロンの展開にどの町内会も躊躇している状況があります。今後、各町内会の状況に合わせながら、地域共生への取組みを進めていく必要があると判断します。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標2】

事業番号	2 － 3 － ◆	担当課	教育委員会	担当班	社会教育班
事業名	生涯現役講座運営事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「教育・文化」で輝くまち		会計	一般会計	
戦略目標	生涯にわたって学ぶことができる機会をつくる		款	10	教育費
法令根拠条例等	社会教育法		項	5	社会教育費
個別計画	第二期　佐々町教育振興基本計画		目	1	社会教育総務費

1　事業内容

【行動指針】

・長崎県立大学等の高等教育機関等と連携し、高齢者の生きがいづくり・仲間づくりを目的に、各種講座プログラムを運営します。

【事業概要】

○教育委員会主催講座における長崎県立大学との連携

「すぐに使えるカンタン日常英会話」と題して、長崎県立大学地域創造学部　教授　山﨑祐一氏を講師に招き講座を開催予定としていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となり実施できませんでした。

○高齢者の生きがいづくり・仲間づくり（決算額　188,395円）

＜明生大学＞一般男女を対象とした講座

	講座内容	講師等	実施状況
1	教育長講話	教育長	中止
2	県政出前講座「3日分の物資備蓄をしよう」	県福祉保健課	中止
3	安心安全講話	江迎警察署	中止
4	公証役場～何ができるか学ぼう～	佐世保公証役場　公証人	参加31名
5	月のお話	町内ボランティア	中止
6	生きていることの喜びを	ギター親子ユニット南無	参加34名
7	移動学習（長崎孔子廟中国歴代博物館他）	長崎市内	参加16名
8	人権講話「気づきから学びへ」	長崎県人権・同和教育指導者	参加26名
9	貯筋運動「運動して体を暖めよう！」	健康運動指導士	参加26名
10	町制80周年記念「佐々町今昔物語（町の移り変わり）」	町内ボランティア（郷土史家）	中止
		計	参加133名

＜さざんか教室＞一般女性を対象とした講座

	講座内容	講師等	実施状況
1	教育長講話	教育長	中止
2	すぐに使えるカンタン日常英会話講座(県立大学との連携)	長崎県立大学地域創造学部教授	中止
3	利き脳片づけ収納術講座	マスターライフオーガナイザー	中止
4	おすわりエクササイズ	健康運動指導士	中止
5	味噌作り講座	ＮＰＯ大地といのちの会　理事	中止
6	お茶を楽しもう～美味しいお茶　淹れ方～	有限会社　北村製茶	参加14名
7	移動学習（長崎孔子廟中国歴代博物館他）	長崎市内	参加11名
8	人権講話「気づきから学びへ」	長崎県人権・同和教育指導者	参加13名
9	繭玉作り「繭玉でおひなさまを作ろう」	匠工房	中止
10	あっと驚く不思議なマジック講座	長崎マジッククラブ	中止
		計	参加38名

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		290,420	218,005	188,395	442,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	290,420	218,005	188,395	442,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	各種講座参加者数【総合戦略】【単】	573人/年	人	目標	600/年	600/年	600/年	600/年	600/年	54%
				実績	324	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	3
		☑ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
新型コロナウイルス感染症の影響により中止した学級・講座もあり、成果指標の実績は達成できませんでしたが、高齢者の生きがいづくり・仲間づくりを目的としたプログラムに取り組むことができました。 今後も引き続き実施していきたいと考えます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持　　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標2】

事業番号	2 － 4 － ◆	担当課	教育委員会	担当班	社会教育班
事業名	総合スポーツまちづくり振興事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「教育・文化」で輝くまち		会計	一般会計	
戦略目標	誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を充実する		款	10	教育費
法令根拠条例等	社会教育法		項	5 6	社会教育費 保健体育費
個別計画	第二期　佐々町教育振興基本計画		目	11 1	地域子ども教室推進事業費 保健体育総務費

1　事業内容

【行動指針】
・スポーツに親しむ習慣や意欲・能力の向上を図るため、スポーツ推進委員を中心とした魅力的なスポーツイベントを充実させます。

【事業概要】
〇各世代に応じた各種スポーツ大会の支援
保健体育費総務費　416,848円
・新型コロナウイルス感染症の影響により、「佐々町内駅伝」や「佐々町内バドミントン大会」等については開催することができませんでしたが、「佐々町少年スポーツ大会」、「郡民体育大会」、「佐々町スポーツ大会」等については、延期して開催しました。また、例年3月に開催している「ジョギングフェスティバルinさざ」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催することができませんでした。

・北松浦郡体育協会負担金（構成町：佐々町・小値賀町）213,000円
　２町で行う郡民体育大会や県民体育大会に係る費用を補助し、体育協会の活動の充実を図りました。
・佐々町スポーツ大会開催補助金　37,183円
　本町の体育協会に加盟している競技部の競技力向上と底辺拡大を目指すとともにスポーツを通じて町民の親睦と融和を図ることを目的として佐々町スポーツ大会の開催を予定しました。
　今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により本来の活動ができず、弓道、サッカー部のみの大会となりました。
・佐々町婦人バレーボール大会開催補助金　618円
　町内会の親睦、交流を目的として大会開催を予定しました。
　今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催直前に中止することとなったため、開催案内文に係る印刷代のみの補助となりました。
・町内ナイターソフトボール大会開催補助金　66,000円
　町内各種団体の親睦、交流を目的として大会開催をしました。
　今年度は7～10月にかけて開催し、9チーム36試合の参加実績となりました。
・サンビレッジ・さざソフトテニス大会開催補助金　43,047円
　ソフトテニス愛好者の底辺拡大並びに親睦を図るとともに、技術の向上を目的として大会を開催しました。
・佐々町少年スポーツ大会開催補助金　57,000円
　スポーツを通して少年の健全育成と体力増進を図ること及び大会を通して、本町のスポーツ少年団に加盟している他の競技部との相互交流を促進することを目的とし、大会を開催しました。
　今年度は、8競技について開催できました。（空手道、テコンドー、ソフトテニス、剣道、ミニバスケットボール、サッカー、ソフトボール、バレーボール）

〇総合型地域スポーツクラブの育成
地域子ども教室推進費　150,000円
　＜佐々っ子スポーツ塾＞　ボランティアスタッフ18名　参加者計132名【再掲】
・5月　～基本運動、ｻｰｷｯﾄ活動、短距離走　参加17名
・6月　～陸上教室（講師：田端健児氏／元ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ陸上選手）　参加21名
・7月　～ボールレクリエーション　参加20名
・10月～体力テスト、レクリエーション　参加15名
・10月～ゲーム活動（ドッチビー等）　参加18名
・11月～レクリエーション（鬼ごっこ等）　参加17名
・12月～ゲーム活動（バドミントン）　参加15名
・1月　～ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ等（ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ、ﾎﾞｯﾁｬ、ｽﾄﾗｯｸｱｳﾄ）　参加 9名
・その他に予定していた2回のスポーツ塾が中止となりました。

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		2,414,645	498,530	566,848	5,473,000
財源	国庫支出金				
	県支出金	150,000	150,000	150,000	150,000
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	2,264,645	348,530	416,848	5,323,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	総合型地域スポーツクラブ会員数 【総合戦略】【累】	195人	人	目標	－	－	－	－	200	46%
				実績	91	－	－	－	－	
成果	スポーツイベントの参加者数 【総合戦略】【単】	908人/年	人	目標	920/年	920/年	920/年	920/年	920/年	117%
				実績	1077	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☑ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
新型コロナウイルスの影響で、大会の中止や、活動の縮小があり、成果指標のジョギングフェスティバルの参加者数と体育施設利用者数は達成できませんでした。今後も、感染症対策を図りながら、各団体と協力しながら事業を進めていきます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持　　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標2】

事業番号	3 － 8 － ◆1	担当課	総務課	担当班	総務班
事業名	防災・減災対策推進事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「生活・安全」を大切にするまち		会計	一般会計	
戦略目標	まちの防災力を高め、被害を最小限にとどめる		款	9	消防費
法令根拠条例等	災害対策基本法、消防組織法		項	1	消防費
個別計画	佐々町地域防災計画		目	1	常備消防費

1　事業内容

【行動指針】

・まちの防災力を向上し、災害時に的確に行動ができるための「防災・減災対策」を実施します。

【事業概要】

〇常備・非常備消防整備事業（決算額204,398,657円）

・常備消防及び救急体制の構築のため、事務委託負担金を支出しました。（決算額176,702,000円）

・災害対応力強化のため消防ホース15本、信号ラッパ2本、分団用LEDライト6台、本部用トランシーバー2台の購入を行いました。（決算額651,860円）

・消防団と常備消防の消火連携体制構築のため、佐々小学校付近(第1分団管轄)で火災想定訓練を実施いたしました。例年3回の訓練実施の予定ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大により１回のみの開催にとどまりました。

・消防団の自主的な活動を支援するため、消防団に運営費補助金を交付しました。また、免許種別により消防車の運転が出来ない団員3名に中型免許取得補助金(補助率1/2 上限100,000円）を交付しました。（決算額2,515,418円）

〇災害対策整備事業（決算額4,075,222円）

・大規模災害に備え、災害用備蓄の購入を行いました。（決算額926,627円）

＜購入品及び数量＞

簡易トイレ	2,000個	備蓄用毛布	140枚	レトルトごはん	600食	保存水(500ｍｌ)	1,272本
液体ミルク	120本	非常用生理用品	300枚	子供用おむつ	484枚	大人用おむつ	168枚

・災害時の応援体制構築のため、各関係課において関係機関と協定の締結を行いました。

＜協定先及び協定内容＞

長崎県環境保全協会・長崎県環境整備事業協同組合	保険環境課	5月27日	災害廃棄物の処理等の協力に関する協定
長崎県産業資源循環協会	保険環境課	1月18日	災害廃棄物の処理等の協力に関する協定
(株)セイホウ電設	水道課	6月1日	災害時における水道施設電気設備等の復旧等に関する協定
日本下水道協会	水道課	10月1日	災害時の下水道施設の維持、修繕に関する協定
公益社団法人日本下水道管路管理業協会	水道課	10月1日	災害時の下水道管路の復旧支援協力に関する協定
町内郵便局	総務課	9月22日	日本郵便株式会社との包括的連携に関する協定

・地域防災計画について、浸水想定区域及び土砂災害警戒区域内に位置している要配慮者利用施設の更新(4→43箇所)を行いました。また、法改正に合わせた文言修正、人口などの行政情報及び気象情報の統計数値等の年度更新など所要の改訂を行いました。

・町内会長、議員参加型の避難所開設訓練(1回)や大学生、小学生への防災講話(２回)など町民などへの防災・減災に係る啓発を行いました。（決算額15,120円）

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		218,135,196	250,610,438	208,473,879	243,874,000
財源	国庫支出金	0	13,026,000	0	2,139,000
	県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	1,383,729	253,128	1,335,743	1,438,000
	地方債	0	0	0	13,400,000
	一般財源	216,751,467	237,331,310	207,138,136	226,897,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	避難行動要支援者名簿の情報提供に係る同意者率【総合戦略】【累】	43.4%	%	目標	－	－	－	－	60.0	156%
				実績	93.8	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	2
		☑ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である	
		☑ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☐ 効率的である	2
		☐ 改善の余地がややある	
		☑ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☐ 適切である	
		☑ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☐ 適切である	
		☑ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
新型コロナウイルスの影響により、住民を参集しての活動が制限されました。引き続き、新型コロナウイルスの影響でも進めていけるような方策を検討しながら災害発生時にしっかりと対応できる基盤づくりを行っていく必要があると考えます。		B	**課題が少しあり業務の一部見直しが必要**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持（○）　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標2】

事業番号	3 － 8 － ◆2	担当課	総務課	担当班	総務班
事業名	自主防災組織育成強化事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「生活・安全」を大切にするまち		会計	一般会計	
戦略目標	まちの防災力を高め、被害を最小限にとどめる		款	9	消防費
法令根拠条例等	災害対策基本法		項	1	消防費
個別計画	佐々町地域防災計画		目	4	災害対策費

1　事業内容

【行動指針】

・実効性のある防災活動、災害時における迅速な応急対応ができるように、町内会での防災訓練を通して、自主防災組織の育成強化を行います。

【事業概要】

〇災害対策整備事業（決算額4,075,222円）【再掲】

・自主防災組織の育成と活性化を図るため12月5日に神田、さざん花町内会にて、地域、警察、消防署、消防団合同による防災訓練（避難誘導・避難所運営訓練や関係機関による各種訓練、特殊車両の展示等）を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、2か所での開催予定が１か所のみとなりました。また、住民向けの防災講話についても新型コロナウイルス感染症の影響により実施できませんでした。（決算額58,222円）

・西九州させぼ広域都市圏連携事業佐世保市が開催する各種研修会の負担金を支出しました。本年度はTV会議で1回の開催があり、災害時の初動対応等の研修に総務課・建設課職員が参加しました。（決算額23,000円）

〇災害対策整備事業《R2繰越分》（決算額2,640,000円）

・令和2年度からの繰越事業として、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して低濃度オゾン発生装置を購入し、沖田、牟田原町内会を除く30町内会に貸与を行いました。（決算額2,640,000円）

【防災訓練実施の様子】（左上：避難誘導訓練、左下：煙体験、右上：救急救命訓練、右下：緊急車両展示）

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		13,016,642	41,013,014	6,715,222	7,310,000
財源	国庫支出金	0	12,401,000	2,640,000	0
	県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	1,129,823	1,966,028	1,070,279	1,200,000
	地方債	0	0	0	0
	一般財源	11,886,819	26,645,986	3,004,943	6,110,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	防災訓練の実施組織数 【総合戦略】【累】	0組織	組織	目標	－	－	－	－	3	67%
				実績	2	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	2
		☑ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☐ 適切である	
		☑ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である	
		☑ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☐ 効率的である	2
		☑ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☐ 適切である	
		☑ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☐ 適切である	
		☑ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
新型コロナウイルスの影響により、住民を参集しての活動が制限されました。引き続き、新型コロナウイルスの影響でも進めていけるような方策を検討しながら災害発生時にしっかりと対応できる基盤づくりを行っていく必要があると考えます。		B	**課題が少しあり業務の一部見直しが必要**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持（○）　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標2】

事業番号	3 － 1 － ◆	担当課	建設課	担当班	都市計画班
事業名	身近な公園維持管理事業				

総合計画上の位置づけ	基本目標	「生活・安全」を大切にするまち	予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標	快適な生活に必要な市街地や施設環境を整える		款	8	土木費
法令根拠条例等		佐々町愛護団体支援事業実施要綱		項	1	土木管理費
個別計画		佐々町公園施設長寿命化計画		目	1	土木総務費

1　事業内容

【行動指針】
・身近な公園をより地域に愛着のあるものにするため、愛護団体による活動を支援します。

【事業概要】
○愛護団体支援事業（決算額　229,217円）
　愛護団体として登録された団体が、公園などの町有地を清掃活動をする際に、ごみ袋・軍手や草刈機替え刃などの消耗品、飲料品、草刈機の燃料・花苗などについて支給し、活動を援助しました。
　※令和3年度登録団体数(6団体)：神田・すみれ会・清掃クラブ、北部グラウンド整備団体、大日山愛護団体、さざん花、四ツ井樋末広会、神田上営農組合

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		－	85,622	229,217	2,075,830
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源		85,622	229,217	2,075,830

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	愛護団体登録者数【総合戦略】【累】	0団体	団体	目標	－	－	－	－	10	60%
				実績	6	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である	3
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である	
		☐ 検討の余地がある	
		☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している	3
		☑ 目標をやや下回った	
		☐ 目標を大きく下回った	
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である	3
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である	
		☐ 改善の余地がややある	
		☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
愛護団体の登録数については、2年目の事業として順調に登録団体が増えていることは評価できると考えます。	評価の結果	A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
（現状維持）　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標2】

事業番号	3 － 2 － ◆1	担当課	建設課	担当班	都市計画班
事業名	広域的道路ネットワーク構築事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「生活・安全」を大切にするまち		会計	一般会計	
戦略目標	身近な交通ネットワークや広域交通ネットワークを確保する		款	8	土木費
法令根拠条例等	－		項	1	土木管理費
個別計画	－		目	1	土木総務費

1　事業内容

【行動指針】
・地域経済の発展や文化振興、生活圏拡大に不可欠で広域的な道路ネットワークを構築するものとして、西九州自動車道整備促進を進めます。

【事業概要】
○西九州自動車道建設促進大会（町費負担なし）
　西九州自動車道の早期完成に向けた促進大会の開催により、促進活動を行いました。また、その後、国に対して、要望書の提出を行いました。
　※促進大会：令和3年12月18日、要望書提出：令和4年2月18日
○西九州自動車道建設促進期成会会費（決算額　63,000円）
○長崎県西九州自動車道建設促進期成会負担金（決算額　43,000円）
○東彼杵道路建設促進期成会会費（決算額　21,500円）

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		246,560	127,500	127,500	236,700
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	246,560	127,500	127,500	236,700

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	西九州自動車道延伸に関する国への要望回数【総合戦略】【単】	1回/年	回	目標	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	100%
				実績	1	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
促進大会の開催、要望書の提出により早期完成にかける地元の熱意を国へ伝えることで、今後の事業予算確保につながる活動ができたと考えます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持（○）　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標2】

事業番号	3 － 2 － ◆2	担当課	企画商工課	担当班	企画班
事業名	地域公共交通事業者支援事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「生活・安全」を大切にするまち	会計	一般会計		
戦略目標	身近な交通ネットワークや広域交通ネットワークを確保する	款	2	総務費	
法令根拠条例等		項	1	総務管理費	
個別計画	松浦鉄道施設整備事業計画	目	6	企画費	

1　事業内容

【行動指針】
・地域公共交通の基幹となる松浦鉄道の運営を支援し、移動しやすいまちの実現と地域の交通手段の確保に取り組みます。

【事業概要】
〇松浦鉄道の安全性や利便性、サービスの向上を図るための施設整備事業に対して補助しました。
（決算額：7,129,000円）

主な施設整備事業
・レール重量化
・マクラギ交換
・分岐器重量化
・法面保護（固定）
・橋梁整備
・重要部検査　等々

〇昨年度に続き、松浦鉄道の沿線自治体において協調して新型コロナウイルス感染症の影響に対する持続化支援を行うことが決定され、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し支援しました。
（決算額：4,390,000円）

松浦鉄道利用人数

	全体利用者数（有田駅～佐世保駅）	対前年比	佐々町内利用者数（神田駅～小浦駅）	対前年比
R元年度	5,546,686人	97.6%	499,738人	98.6%
R2年度	4,506,728人	81.3%	408,432人	81.7%
R3年度	4,700,152人	104.3%	427,586人	104.7%

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		10,798,000	16,521,000	11,519,000	7,687,000
財源	国庫支出金		4,900,000	2,738,000	
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	10,798,000	11,621,000	8,781,000	7,687,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	松浦鉄道1日乗降客数（町内4駅）【総合戦略】【単】	1,369人/日	人	目標	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	86%
				実績	1,171	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☑ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☐ 適切である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
令和３年度においては、新型コロナウイルスの影響から鉄道利用者が減少しており、目標達成には至っていません。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
（現状維持）　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標3】

事業番号	5 － 1 － ◆1	担当課	農林水産課	担当班	
事業名	新規就農支援事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「産業・観光」でにぎわうまち		会計	一般会計	
戦略目標	消費者ニーズに対応した魅力ある農産物を生産・供給する		款	6	農林水産業費
法令根拠条例等	農業人材力強化総合支援事業実施要綱		項	1	農業費
個別計画	農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想		目	5	農業振興費

1　事業内容

【行動指針】
・本町農業への関心、就農意欲を高める情報発信を進めるとともに、農業就農希望者が意欲を持って就農できる環境を充実させます。

【事業概要】
○農業次世代人材投資事業費補助金の交付（決算額　3,750,000円）
　農業を始めてから経営が安定するまでの間（最長5年）、収入保障として新規就農者に対し、経営確立資金として補助金を交付しました。
　①畜産　　（単身型-4年目）125,000円×12月×1件＝1,500,000円
　②ミニトマト（夫婦型-3年目）187,500円×12月×1件＝2,250,000円

≪交付基準額≫
　単身型：125,000円／月（1,500,000円／年）
　夫婦型：187,500円／月（2,250,000円／年）

≪交付期間≫
　最大5年間（令和4年度以降の認定新規就農者については3年間）

≪交付対象者の主な要件≫
1. 独立・自営就農時の年齢が、原則49歳以下の認定新規就農者であり、次世代を担う農業者となることについて強い意欲を有していること。
2. 自ら作成した青年等就農計画に即して主体的に農業経営を行う独立・自営就農であること。
3. 青年等就農計画等が独立・自営就農5年後には農業（自らの生産に係る農産物を使った関連事業で生計が成り立つ実現可能な計画であること。
4. 市町村が作成する人・農地プランに中心となる経営体として位置付けられていること、または農地中間管理機構から農地を借り受けていること。
5. 生活保護等、生活費を支給する国の他の事業と重複需給していないこと。
6. 原則として前年の世帯所得が6,000,000円以下であること。

※夫婦ともに就農する場合は夫婦合わせて1.5人分を交付する。
※交付期間終了後、交付期間と同期間以上、営農を継続しなかった場合、返還の対象となる。

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		6,000,000	4,875,000	3,750,000	5,250,000
財源	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	6,000,000	4,875,000	3,750,000	5,250,000
	その他特定財源	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	認定農業者数【総合戦略】【累】	31人	人	目標	－	－	－	－	現状維持	90%
				実績	28	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☑ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	2
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
経営が不安定である経営初期段階の新規就農者2件(3名)に対して農業次世代人材投資事業により助成しました。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
後継者もおらず、新規就農者を募集しても実績が上がらない状況であるが、目標達成に向けて努力してもらいたい。
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標3】

事業番号	5 － 1 － ◆2	担当課	農林水産課	担当班	農林水産班
事業名	地域集落営農推進事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「産業・観光」でにぎわうまち		会計	一般会計	
戦略目標	消費者ニーズに対応した魅力ある農産物を生産・供給する		款	6	農林水産業費
法令根拠条例等	農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律、経営所得安定対策推進事業実施要綱		項	1	農業費
個別計画	農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想		目		

1　事業内容

【行動指針】
・持続的で効率的な農業経営を図るため、集落営農組織、農地所有適格法人を拡大します。

【事業概要】
①経営所得安定対策等推進事業費補助金の交付（決算額　934,000円）　P130
　佐々町地域農業再生協議会へ事務費に係る補助金を交付し、水田における転作を奨励するため、水田フル活用ビジョンを作成し、経営所得安定対策等の農業者への直接支払交付金に係る交付金事務を実施しました。
（予算科目：6-1-5農業振興費）

②中山間地域等直接支払交付金の交付（決算額　19,487,361円）　P134
　農業生産条件の不利な中山間地域において、集落等を単位に農用地を維持・管理していくための協定を締結し、農業生産活動を行う場合、面積・活動内容に応じて交付金を交付しました。
・志方集落- 428,778円、東部集落- 8,709,855円、木場集落- 10,348,728円
（予算科目：6-1-9中山間地域等直接支払制度事業費）

③多面的機能支払交付金の交付（決算額　7,369,190円）　P136
　農地・農業用水等の資源の保全と質的向上を図るとともに、農業が本来有する自然環境機能を維持・増進するため、地域の共同活動及び老朽化が進む農業用排水路等の補修等を行う活動組織に面積・活動内容に応じて交付金を交付しました。
・大新田地区活動組織-1,437,750円、森ノ木地区活動組織-774,900円、市瀬地区活動組織-978,860円、神田地区活動組織-891,720円、牟田原地区活動組織-231,710円、木場本陣の里活動組織-2,345,650円、野寄地区活動組織-319,800円、角山地区活動組織-231,000円、神田中山間地区活動組織-157,800円
（予算科目：6-1-12多面的機能支払交付金事業費）

④環境保全型農業直接支払交付金の交付（決算額　1,374,000円）　P134
　地球温暖化防止や生物多様性保全のため、環境保全効果の高い有機農業に取り組む団体を支援するため交付金を交付しました。
（予算科目：6-1-10環境保全型農業直接支援対策事業費）

※　木場地区において、中山間地域等直接支払交付金及び多面的機能支払交付金を活用し活動していく中で、共同活動による「麦・大豆」の作付けを計画され、平成18年7月に設立されていた「木場地区機械利用組合」を、令和元年7月に規約改正を行うことにより、集落営農組織として位置付けられました。
　また、集落営農組織として「麦・大豆」を作付、収穫、販売することで、経営所得安定対策等直接支払交付金を受給できることとなりました。
　なお、令和元年度の作付面積は2.4haでございましたが、令和2年度以降、木場地区内外の農地を活用し、「麦」の作付けが拡大したことにより、作付面積が13.8haと増加しています。

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		30,494,607	29,107,951	29,164,551	30,840,000
財源	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	23,067,949	22,053,460	22,106,910	23,755,000
	その他特定財源	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	一般財源	7,426,658	7,054,491	7,057,641	7,085,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	集落営農組織、農地所有適格法人の作付面積【総合戦略】【累】	2.4ha	ha	目標	－	－	－	－	6.0	230%
				実績	13.8	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☐ 妥当である ☑ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☐ 効率的である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
当事業による各種補助金を組み合わせることで、集落営農組織の麦の作付面積が増加しています。ただし、作付面積増加に伴う収穫量の増加に対し、組織が持つ現時点の農業用機械では収穫時期を逸し、また、天候等の条件により、収穫作物の等級が落ちてしまう状況が発生しています。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持（○）　・　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標3】

事業番号	5 － 1 － ◆3	担当課	農林水産課 農業委員会	担当班	農林水産班 —
事業名	農地確保支援事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「産業・観光」でにぎわうまち		会計	一般会計	
戦略目標	消費者ニーズに対応した魅力ある農産物を生産・供給する		款	6	農林水産業費
法令根拠条例等			項	1	農業費
個別計画	農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想		目	13	農地中間管理機構事業費

1　事業内容

【行動指針】
・離農や高齢化に伴い、耕作放棄された農地を意欲ある農家に貸し出し、生産性を向上させ、農地の有効活用を進めます。

【事業概要】
○農地中間管理機構事業費（決算額　1,887,360円）
○農業委員会費（決算額　なし）
　遊休農地の発生防止・解消および農用地の有効利用の促進・農業経営基盤の強化を図るため、「貸し手」・「借り手」農家の掘り起こしを行い、利用権を設定しました。
　農業経営基盤強化促進法による利用設定は58件ありましたが、農地を貸し借りする場合の中間的受け皿である農地中間管理機構を活用した利用権設定はありませんでした。

※参考
・農地法3条申請　7件　35,467㎡
（農地を農地として利用する場合の権利移転）
・農地法4条申請　7件　1,520.69㎡
（本人が所有する農地を本人が農地以外の目的に使用するための転用）
・農地法5条申請　10件　4,839㎡
（本人が所有する農地を第三者が農地以外の目的に使用するための転用）

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		1,460,442	1,877,836	1,887,360	50,000
財源	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	1,460,442	1,877,835	1,887,359	50,000
	その他特定財源	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	一般財源	0	1	1	0

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
活動	貸出農地面積【総合戦略】【累】	77ha	ha	目標	－	－	－	－	90	120%
				実績	108	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
農業委員と連携し、貸し手・借り手の掘り起こしを行い利用権の設定ができましたが、農地中間管理事業ができませんでした。今後は積極的に農地中間管理事業を行い、農地集積・集約化に取り組んでいきたいと考えます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☑	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☐	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
（現状維持）・　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標3】

事業番号	5 － 2 － ◆1	担当課	企画商工課	担当班	商工観光班
事業名	起業・創業支援事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「産業・観光」でにぎわうまち		会計	一般会計	
戦略目標	地域に密着した産業を創出・育成し、活力と賑わいのある商店街を形成するとともに、町産業力を強化する		款	7	商工費
法令根拠条例等			項	1	商工費
個別計画			目	3	創業支援事業費

1　事業内容

【行動指針】
・町内外を問わず、意欲ある人材が町内で起業・創業を希望する場合に、商工会、地元金融機関などとも連携し、相談をはじめとした様々な支援策を検討し進めます。特に女性や若者等が新たに仕事へのチャレンジをしたくなる環境を整えます。

【事業概要】
○創業支援資金融資制度
　令和3年度利用者数・融資額　1件　　3,200,000円
　預託金額　　10,000,000円
　保証料補助額　　20,893円

　創業支援資金融資制度とは、町内で、新たに事業を開始又は実施するために必要となる資金の円滑化を図ることにより、佐々町における創業を活性化し、町内産業の健全な発展に資することを目的とした融資制度です。

＜融資条件＞
　(1) 融資限度額　１創業者につき500万円以内
　(2) 融資期間　　融資の期間は７年以内(うち据置期間１年以内)
　(3) 融資利率　　年1.30%
　(4) 償還方法　　一括または月賦償還
　(5) 信用保証　　保証協会の創業関連保証を受ける
　(6) 保証人　　金融機関又は保証協会の定めるところ
　(7) 担保　　徴求しない
　(8) 保証料　　町が全額補給

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		10,022,073	10,022,792	10,020,893	10,120,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
	地方債				
	一般財源	22,073	22,792	20,893	120,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	起業創業相談件数【総合戦略】【単】	11件/年	件	目標	20/年	20/年	20/年	20/年	20/年	15%
				実績	3	－	－	－	－	
成果	創業支援融資制度利用件数【総合戦略】【単】	1件	件	目標	10	10	10	10	10	10%
				実績	1	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全国的に事業者数は減少していますが、令和3年度は融資制度利用者が1件ありました。今後も商工会、地元金融機関と協力して、融資制度のPRや空き店舗情報の整理を行い、事業を進めていきます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
創業をした人が集まるような仕掛けを期待したい。
委員会評価
（現状維持）・見直し・廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標3】

事業番号	5 － 2 － ◆2	担当課	企画商工課	担当班	商工観光班
事業名	地元中小企業支援事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「産業・観光」でにぎわうまち		会計	一般会計	
戦略目標	地域に密着した産業を創出・育成し、活力と賑わいのある商店街を形成するとともに、町産業力を強化する		款	7	商工費
法令根拠条例等	－		項	1	商工費
個別計画	－		目	2	商工業振興費

1　事業内容

【行動指針】
・商工会、地元金融機関と連携し、中小企業の経営指導及び経営相談の機能を強化し、各種研修、先進地視察などを支援することで、商業者の資質向上と後継者の育成、さらに団体、組織の拡充活動を行います。

【事業概要】
○中小企業振興資金融資制度
令和3年度利用者数・融資額　2件　6,480,000円
預託金額　40,000,000円
保証料補助額　359,895円

佐々町中小企業振興資金融資制度とは、町内中小企業の健全な発展に資するため、中小企業者の運転資金及び設備に要する資金の融通を円滑にすることを目的とした融資制度です。

＜融資条件＞
(1) 融資限度額　500万円
(2) 融資期間　10年以内(うち据置１年以内)
(3) 融資利率　年1.40%
(4) 償還方法　一括または月賦償還
(5) 保証人　長崎県信用保証協会の定めるところ
(6) 担保　長崎県信用保証協会の定めるところ
(7) 保証料　財務その他経営に関する情報を基に、保証協会が定める９区分の保証料の基準率で行った信用保証について、以下に掲げる区分に応じた補助料率で交付する。

	基準料率	補助料率
①	1.90%	1.00%
②	1.75%	1.00%
③	1.55%	1.00%
④	1.35%	1.00%
⑤	1.15%	1.00%
⑥	1.00%	1.00%
⑦	0.80%	0.80%
⑧	0.60%	0.60%
⑨	0.45%	0.45%

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		40,428,057	40,430,854	40,359,895	45,200,000
財源	国庫支出金				1,000,000
	県支出金				2,000,000
	その他特定財源	40,000,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000
	地方債				
	一般財源	428,057	430,854	359,895	2,200,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	中小企業振興融資制度利用件数 【総合戦略】【単】	12件	件	目標	20	20	20	20	20	10%
				実績	2	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☑ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
新型コロナウイルス感染症拡大対策事業として県が無利子・無担保の融資制度を実施したため、本町の融資制度利用は減少しましたが、県制度が終了したため、今後は利用者も増える見込みです。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標3】

事業番号	5 － 2 － ◆3	担当課	企画商工課	担当班	商工観光班
事業名	空き店舗再生事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「産業・観光」でにぎわうまち		会計	一般会計	
戦略目標	地域に密着した産業を創出・育成し、活力と賑わいのある商店街を形成するとともに、町産業力を強化する		款	7	商工費
法令根拠条例等	－		項	1	商工費
個別計画	－		目	2	商工業振興費

1　事業内容

【行動指針】
・主婦・若者・学生等の多様な人材の柔軟な発想を取り入れ、空き店舗再生を目指します。

【事業概要】
　商工会各部会が主催して先進地視察研修を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施できませんでした。

　令和元年度　空き店舗数　50店舗

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		28,366	0	0	60,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	28,366	0	0	60,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	町の事業者数【総合戦略】【累】	548件	件	目標	－	－	－	－	600	93%
				実績	557	－	－	－	－	
成果	空き店舗の再生事業数【総合戦略】【累】	1件	件	目標	－	－	－	－	5	20%
				実績	1	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☑ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業が進められませんでしたが、町内の空き店舗で開業した事業者は見られたので、今後も商工会と協力して、事業を進めていきたいと考えます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
・空き店舗の情報があれば共有したい。 ・空き店舗の需要は多いが、家賃の額やリフォーム費用等がネックになるケースがあるので、そのギャップを埋める施策の検討を町にお願いしたい。
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標4】

事業番号	3 － 4 － ◆	担当課	企画商工課 総務課	担当班	企画班 総務班
事業名	まちなか町有地活用事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「生活・安全」を大切にするまち		会計	一般会計	
戦略目標	まちの中心にふさわしい機能の充実を図る		款		
法令根拠条例等			項		
個別計画	佐々町都市計画マスタープラン、佐々町公共施設等総合管理計画		目		

1　事業内容

【行動指針】
・旧町立診療所周辺、幼稚園跡地など、町有地の有効な活用により、まちなか活性化のための事業化に取り組みます。

【事業概要】
○まちなか町有地利活用
　旧町立診療所周辺、幼稚園跡地などの、町の中心部に存在する大規模な町有地（まちなか町有地）の今後の利活用について、当面は新庁舎建設に係る駐車場として利用する方針としました。
　また、新庁舎建設事業終了後の利活用方法について、サウンディング型市場調査等の検討手法の整理を行いました。

幼稚園跡地

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		50,268,420	0	0	0
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	50,268,420			

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	まちなかエリアの人口【累】	2,558人	人	目標	－	－	－	－	2,600	99.5%
				実績	2,588	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	2
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☐ 妥当である ☑ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☐ 妥当である ☑ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☐ 効率的である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	2
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☐ 適切である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果	B	課題が少しあり業務の一部見直しが必要
新庁舎建設事業に合わせ、当面は駐車場としての利用となるが、それ以降の利活用のついては引き続き検討を進めるようにしたい。			

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
今後も旧町立診療所周辺、幼稚園跡地の有効活用を検討していていただきたい。
委員会評価
現状維持　・　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標4】

事業番号	5 － 1 － ◆4	担当課	農林水産課	担当班	農林水産班
事業名	農業体験施設・皿山農産物直売所活性化事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「産業・観光」でにぎわうまち		会計	一般会計	
戦略目標	消費者ニーズに対応した魅力ある農産物を生産・供給する		款	6	農林水産業費
法令根拠条例等	佐々町農業体験施設設置条例		項	1	農業費
個別計画	農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想		目	11	農業体験施設管理費

1　事業内容

【行動指針】
・農業体験施設・皿山農産物直売所活性化事業農業体験施設の利用者拡大のため、農地の貸し出し、野菜づくり体験、イベント開催の会場などとして利用する機会を創出します。皿山農産物直売所においては、町内で収穫された新鮮な農産物を安全・安心して購入できる拠点として農産物の供給体制を整備します。

【事業概要】
○農業体験施設管理費（決算額　17,212,699円）
　町内小学生及び町内保育所･幼稚園児童が野菜づくりが体験できるよう体験農園事業を実施しました。
　また、農業体験施設の利用者拡大のため、町外保育所･幼稚園及び町内外希望者への体験農園の貸出を行いました。
　なお、農業体験以外のスポーツ団体やキャンプ利用等の施設利用についても、受入れを行いましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数は減少しています。

＜農業体験施設使用状況＞

①一般使用

	日帰り使用		宿泊使用		①計		体験農園使用		《合計 ①+②》		
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	一般	学校等	件数	人数	（前年比）
平成29年度	51	2,126	20	598	71	2,724	13	5	109	5,666	―
平成30年度	39	1,481	21	507	60	1,988	9	8	93	4,845	△ 821
令和元年度	25	2,193	26	626	51	2,819	6	9	82	5,258	413
令和２年度	32	1,257	15	180	47	1,437	6	8	68	2,585	△ 2,673
令和３年度	23	739	23	177	46	916	7	7	76	2,858	273

②学校関係使用

	日帰り使用										宿泊使用		②計	
	保育所･幼稚園		小学校		中学校		高校		計		件数	人数	件数	人数
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数				
平成29年度	20	1,009	16	1,306	0	0	1	600	37	2,915	1	27	38	2,942
平成30年度	16	1,033	16	1,349	0	0	1	475	33	2,857	0	0	33	2,857
令和元年度	16	766	14	1,153	0	0	1	520	31	2,439	0	0	31	2,439
令和２年度	16	721	5	427	0	0	0	0	21	1,148	0	0	21	1,148
令和３年度	15	709	15	1,233	0	0	0	0	30	1,942	0	0	30	1,942

③使用料集計

	日帰り使用	宿泊使用	ｴｱｺﾝ使用	体験農園	計
平成29年度	19,350	686,080	25,800	413,700	1,144,930
平成30年度	5,740	557,220	30,700	448,630	1,042,290
令和元年度	9,750	712,290	0	463,970	1,186,010
令和２年度	13,070	186,920	34,600	408,200	642,790
令和３年度	7,890	199,700	0	357,960	565,550

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		14,325,747	21,045,617	17,212,699	20,087,000
財源	国庫支出金	0	0	0	2,144,000
	県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	1,669,011	1,366,157	1,221,525	979,000
	地方債	0	0	0	0
	一般財源	12,656,736	19,679,460	15,991,174	16,964,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	農業体験施設年間利用者数 【総合戦略】【単】	5, 258人/年	人	目標	6, 000/年	6, 000/年	6, 000/年	6, 000/年	6, 000/年	48%
				実績	2, 858	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☐ 妥当である ☑ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	2
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☐ 妥当である ☑ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☐ 妥当である ☑ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☑ 目標を大きく下回った	2
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☐ 適切である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☐ 効率的である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	1
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☐ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☑ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☐ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☑ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
新型コロナウイルス感染症の影響により、利用停止期間もあり利用者数が減少している。また、一般の利用者については、農業体験目的ではない施設利用者の割合が多く、今後の施設活用の方向性についても検討していく必要があると考えます。		C	**課題が多くあり業務の大幅な見直しが必要**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
・農業体験施設という名称を変えてはどうか。 ・農業体験施設ではあるが、農業をサブにして、現在流行しているキャンプ場としての利用など、人を呼び込む施策を検討して、施設を活かす管理をしてもらいたい。 ・民間に管理してもらってはどうか。
委員会評価
現状維持　・　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標4】

事業番号	5 － 3 － ◆1	担当課	企画商工課	担当班	商工観光班
事業名	通年型観光イベント事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「産業・観光」でにぎわうまち		会計	一般会計	
戦略目標	世代・地域を超えて様々な交流を育む環境をつくる		款	7	商工費
法令根拠条例等	－		項	1	商工費
個別計画	－		目	5	祭り費

1　事業内容

【行動指針】
・町内資源を掘り起こし、新規のイベント開発、既存イベントの見直し等、行政と町民・企業が協働した地域外交流の創出に向けた取組を行います。

【事業概要】
　下記のイベントを開催しました。ただし、例年6月上旬開催の「花菖蒲うなぎまつり」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止しました。

①しだれ桜まつり（決算額　124,055円）
　県内最多11品種60本のしだれ桜が植栽された真竹谷広場を会場に開催しました。
　1　開催日時　令和3年4月1日(月)～14日(日) 14日間
　2　来場客数　4/1-2:100人、4/3-4:850人、4/5-9:250人、4/13-14:800人
　3　事業概要　園内自由散策による桜鑑賞。

②サザンフェスおさんぽマルシェ（決算額　205,550円）【再掲】
　子育て中の若いファミリーをターゲットにして、雑貨や飲食店等の出店で集客し、あわせて、小物づくり等のワークショップを行い、子供と一緒に楽しめるイベントとして開催しました。
　1　開催日時　令和3年11月14日（日）
　2　来場客数　1,000名
　3　事業概要　ハンドメイド作品を中心とした雑貨販売、飲食（テイクアウトのみ）、エステ等各種ブースに約20店舗が出展。色のついた砂を使ったサンドアートや、流木を使ったアート、といった親子で楽しめる体験型ワークショップを実施。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で大会が中止になった地元中学校や高校吹奏楽部によるコンサートを開催。

○河津桜・シロウオまつり（決算額　608,293円）【再掲】
　桜づつみ遊歩道沿いに植栽された260本の河津桜の満開時期に合わせ、最盛期を迎えるシロウオ漁の体験、商工会協力のもと町内47店舗によるおもてなしフェアスタンプラリーを開催。例年3月上旬に開催しているステージイベントについては新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止。
・シロウオ漁体験
1　開催日時　令和4年3月5日、3月6日、3月12日、3月13日　4日間
2　開催場所　佐々川下流（桜づつみ遊歩道）　漁足場2箇所
3　参 加 者　125人（32組）
4　体験概要　四ツ手網による漁体験(30分)。

・おもてなしフェアスタンプラリー
1　開催日時　令和4年3月1日(月)～3月31日(水)　各店舗営業時間による　31日間
2　参加店舗　町内50店舗
2　事業概要　チラシを使用したスタンプラリーを実施し、3店舗以上をまわってアンケートを提出していただいた方に、抽選で参加店舗提供の商品を贈呈。

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		1,808,689	602,416	937,898	2,560,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源	904,344	301,208	468,949	1,280,000
	地方債				
	一般財源	904,345	301,208	468,949	1,280,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	観光協会主催イベントの参加者数【総合戦略】【単】	0人/年	人	目標	3,000/年	3,000/年	3,000/年	3,000/年	3,000/年	5%
				実績	147	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☐ 妥当である ☑ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止したイベントもありましたが、対策を講じて、できる限り開催しました。イベント運営については、徐々にではありますが、商工業者が主体になりつつありますので、この流れを止めないようにしていきたいと考えます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
しだれ桜まつりの時に、会場である真竹谷広場の雑草が伸びている、歩道も整備されていない、との意見があり、桜は佐々町の財産であり、有効活用できるように、整備を行ってほしい。
委員会評価
（現状維持）・見直し・廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標4】

事業番号	5 － 3 － ◆2	担当課	企画商工課	担当班	商工観光班
事業名	観光情報発信事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「産業・観光」でにぎわうまち		会計	一般会計	
戦略目標	世代・地域を超えて様々な交流を育む環境をつくる		款	7	商工費
法令根拠条例等	－		項	1	商工費
個別計画	－		目	4	観光費

1　事業内容

【行動指針】
・人物・自然・歴史・食・スポーツ、レクリエーションなど老若男女を問わず、みんなが楽しめる多彩なジャンルの観光コンテンツを充実させます。

【事業概要】
○佐々町観光協会補助金（地方創生推進交付金事業）　（決算額　3,600,000円）
　観光協会に企画立案等を行うコーディネーターを2名配置し、下記の事業を実施しました。

①情報発信活動
・ホームページやインスタグラム・フェイスブックのSNSによる情報発信を実施。
　※投稿数　令和3年度　186投稿（3日に1投稿のペース）。
・町のPRの一環として、また伝育坊を再度知っていただくために、クリアファイルを作成。町内全世帯に配布。
・ランチが食べられる店舗と、スイーツを販売している店舗が分かる「佐々町ランチ＆おやつマップ」を作成。
・町内の桜のスポットが分かる「佐々町さくらマップ」を作成。
・観光協会通信の発行。4月に8号、9月に9号、12月に10号、1月に11号を発行。

②フォトコンテストの開催
　フォトライブラリーを獲得することを目的として、令和3年7月1日から令和4年6月30日までの4シーズン開催。令和3年度は夏、秋、冬のコンテストを実施。11月には役場で夏の表彰式を実施。
　※応募数　夏60点　秋38点　冬49点

③イベント出展
・10月30 、31日の2日間で開催された西九州させぼ広域都市圏主催の「かっちぇてアイラブ西九州フェア」に参加し、町内の飲食店やお茶園、その他スイーツ等の事業者より商品を集めて販売。
・11月14日に佐々町文化会館で開催された佐々町商工会商業部会主催の「サザンフェスおさんぽマルシェ」に出展。
・12月に佐々町民体育館で開催された、県内外からの参加者が1000人を超える「拳心旗空手道大会」に出展。

④オリジナル商品の開発
・お茶のセット商品の開発
　昨年度開発した「佐々三茶三葉」を手に取りやすい価格ながら、かわいらしさとギフト感を損なわず、ちょっとした手土産にしやすい商品にした「佐々三茶三葉2nd」を開発。
・佐々伝育坊もなかの開発
　町内の菓子店と共同で佐々町の新しい銘菓「佐々伝育坊もなか」を開発。

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		500,000	2,482,543	3,600,000	4,000,000
財源	国庫支出金		1,241,000	1,800,000	2,000,000
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	500,000	12,541,543	1,800,000	2,000,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	観光協会ＳＮＳフォロワー数 【総合戦略】【累】	56人	人	目標	－	－	－	－	1,500	101%
				実績	1,508	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
観光協会コーディネーターも2年目となり、いろいろなところで声をかけられることが増えてきました。SNSフォロワー数も目標に達しましたが、今後も引き続き情報発信を進めていきたいと考えます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標4】

事業番号	5 － 3 － ◆3	担当課	企画商工課	担当班	商工観光班
事業名	佐々川を中心とした観光や交流イベントの情報発信・交流拠点整備事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「産業・観光」でにぎわうまち		会計	一般会計	
戦略目標	世代・地域を超えて様々な交流を育む環境をつくる		款	7	商工費
法令根拠条例等	－		項	1	商工費
個別計画	－		目	4	観光費

1　事業内容

【行動指針】
・佐々駅舎を改修し、各種イベント等に活用可能な多目的スペースを備えた観光物産・交流センターを整備します。また、観光協会が主体となった各種事業において、企画立案等を行うコーディネーターを配置し、観光協会の体制強化及び事業拡充を行います。併せて、佐々町にちなんだお茶や菓子類などの特産品の試作品製作を行い、町のPRができるオリジナル商品の開発を行います。

【事業概要】
〇ソフト事業（佐々町観光協会補助金）（決算額　3,600,000円「再掲」）

①観光協会体制強化及び事業拡充
・観光コーディネーターの配置
　企画立案等を行うコーディネーターを配置しました（2名）。

・情報発信活動
　ホームページやインスタグラム・フェイスブックのSNSによる情報発信を実施しました。令和3年度186投稿。
　町のPRと伝育坊を再度知っていただくために、クリアファイルを作成し、町内全世帯に配布しました。。
　ランチが食べられるお店と、スイーツ販売店が分かる「佐々町ランチ＆おやつマップ」を作成しました。
　町内の桜のスポットが分かる「佐々町さくらマップ」を作成しました。
　観光協会通信の発行。4月に8号、9月に9号、12月に10号、1月に11号を発行しました。

・フォトコンテストの開催
　フォトライブラリーを獲得することを目的として、令和3年7月1日から令和4年6月30日までの4シーズン開催しました。令和３年度は夏、秋、冬のコンテストを実施しました。11月26日に役場で夏の表彰式を実施しました。
　※応募数　夏60点　秋38点　冬49点

・イベント出展
　10月30 、31日の2日間で開催された西九州させぼ広域都市圏主催の「かっちぇてアイラブ西九州フェア」に参加し、町内の飲食店やお茶園、その他スイーツ等の事業者より商品を集めて販売しました。
　11月14日文化会館で開催された佐々町商工会商業部会主催の「サザンフェスおさんぽマルシェ」に出展しました。
　12月12日町民体育館で開催された、県内外からの参加者が1000人を超える「拳心旗空手道大会」に出展しました。

②オリジナル商品の開発
・お茶のセット商品の開発
　昨年度開発した「佐々三茶三葉」を手に取りやすい価格ながら、かわいらしさとギフト感を損なわず、ちょっとした手土産にしやすい商品にした「佐々三茶三葉2nd」を開発しました。

・佐々伝育坊もなかの開発
　町内の菓子店と一緒に共同で佐々町の新しい銘菓「佐々伝育坊もなか」を開発しました。

〇ハード事業（佐々駅舎改修工事）（決算額　36,498,000円）
　佐々駅舎をリノベーションし、「佐々駅舎交流センター」として、 テナントスペース・交流スペース等の整備を行いました。

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費			5,479,853	40,098,000	4,000,000
財源	国庫支出金		2,731,000	19,300,000	2,000,000
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債		1,300,000	15,700,000	
	一般財源		1,448,853	5,098,000	2,000,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	佐々町観光物産・交流センターの利用者数【総合戦略】【単】	8,174人/年（現センター分）	人	目標	13,174/年	13,174/年	13,174/年	13,174/年	13,174/年	34%
				実績	4,486	－	－	－	－	
成果	佐々町観光物産・交流センターの収益増加額【総合戦略】【単】	0千円/年	千円	目標	1,500/年	1,500/年	1,500/年	1,500/年	1,500/年	84%
				実績	1,255	－	－	－	－	
成果	特産品の新商品開発件数【総合戦略】【累】	0件	件	目標	－	－	－	－	9	22%
				実績	2	－	－	－	－	
活動	観光協会事務局の民間への移行【総合戦略】	－	－	目標	－	令和4年度以降	－	－	－	－
				実績	0	－	－	－	－	
成果	観光協会主催イベント数【総合戦略】【累】	0件	件	目標	－	－	－	－	6	17%
				実績	1	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
観光協会コーディネーターも2年目となり、いろいろなところで声をかけられることが増えてきました。SNSフォロワー数も目標に達しましたが、今後も引き続き情報発信を進めていきます。佐々駅舎交流センターが完成しましたが、運用については、観光情報発信、地域交流の拠点となるように運用を進めていきます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持（○）　・　見直し　・　廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標4】

事業番号	5 － 4 － ◆	担当課	企画商工課	担当班	企画班
事業名	地方回帰と産業構造の変化を捉えた 大規模人材育成プロジェクト （移住推進事業）				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「産業・観光」でにぎわうまち	会計	一般会計		
戦略目標	出会いから結婚、移住・定住を応援し、多くの人で賑わうまちをつくる	款	2	総務費	
法令根拠条例等		項	1	総務管理費	
個別計画	西九州させぼ広域都市圏ビジョン	目	6	企画費	

1　事業内容

【行動指針】
・ながさき移住サポートセンターや西九州させぼ移住サポートプラザと連携し、豊かな自然や良好な子育て環境など佐々町の魅力を全国に情報発信するとともに、移住検討段階から佐々町への定住に至るまでの総合的な支援体制を整えます。

【事業概要】
①ながさき移住サポートセンターとの連携により、令和3年度も相談会の実施はされましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、現地での相談会がなかなか開催できず、主にオンラインでの相談会となりました。

令和３年度活動実績
オンライン移住相談会：2回　相談件数：2件
ながさき暮らし移住相談会 in東京：1回　相談件数：2件

②西九州させぼ移住サポートプラザと連携して周遊型ワーケーションガイドブックの製作を行いました。また、移住促進に向けた情報発信として、YouTube番組制作へ参加し佐々町の魅力発信を行いました。

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		484, 295	451, 950	584, 463	858, 000
財源	国庫支出金	134, 000	114, 000	112, 000	149, 000
	県支出金				
	その他特定財源	111, 860		61, 419	152, 500
	地方債				
	一般財源	238, 435	337, 950	411, 044	556, 500

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	ながさき移住サポートセンターを経由した移住者数【総合戦略】【累】	1件	件	目標	－	－	－	－	5	0%
				実績	0	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☑ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	2
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☐ 適切である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
今年度から相談会への参加が予約制となっており、佐々町への予約が他市町と比べ少ないので、佐々町へ興味を持っていただけるよう、ＰＲなどの発信強化に努めたいと考えます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
移住相談の武器として、空き家バンクの作成、病院の多さなどの住みやすさの情報発信を進めていただきたい。
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

【基本目標4】

事業番号	7 － 4 － ◆	担当課	企画商工課	担当班	企画班
事業名	まちづくり応援事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
基本目標	「情報共有・協働」のみんなのまち		会計	一般会計	
戦略目標	自立した町民活動を支援し、町政への町民参画機会を広げ、協働によるまちづくりを進める		款	2	総務費
法令根拠条例等			項	1	総務管理費
個別計画			目	11	ふるさと納税事業

1　事業内容

【行動指針】
・町内外を問わず、佐々町に思いを寄せる人たちからの応援窓口として、ふるさと納税の魅力強化、まちづくり提案箱の活用、企業版ふるさと納税の導入を実施します。

【事業概要】
○令和3年度のるさと納税の決算額は、延べ786件、13,929,000円（対前年度比約155%）でした。
　そこで、さらなる新規返礼品の増加や新規事業者の参入促進に向け、運営委託業者の見直しを行いました。また、寄附者目線に立って、ユーザー心理を掴むようなポータルサイトの作り込み（リニューアル）を行いました。

（寄附実績）
平成30年度　寄附件数：3,023件　寄附額：134,885,000円　返礼品登録数：228件
令和元年度　寄附件数：　663件　寄附額：　23,002,500円　返礼品登録数：160件
令和２年度　寄附件数：　411件　寄附額：　8,990,000円　返礼品登録数：160件
令和３年度　寄附件数：　786件　寄附額：　13,929,000円　返礼品登録数：162件

○令和3年度に企業版ふるさと納税を導入し、令和3年12月から募集を開始しました。

佐々三茶三葉

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		31,447,329	4,952,368	6,949,052	12,131,000
財源	国庫支出金				
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	31,447,329	4,952,368	6,949,052	12,131,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	ふるさと納税件数【総合戦略】【単】	663件/年	件	目標	800/年	800/年	800/年	800/年	800/年	98%
				実績	786	－	－	－	－	
成果	企業版ふるさと納税件数【総合戦略】【単】	－	件	目標	－	2件	2件	2件	2件	0%
				実績	0	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☑ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	2
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☐ 適切である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
ふるさと納税の寄附額は、対前年度比150%と増加しましたが、伸び悩んでいることに変わりはないので、返礼品の新規開拓や、寄附サイトの更新、リピーター確保などの工夫を凝らし寄附額増加につなげたいと考えます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

事業番号	－　－　◆	担当課	企画商工課	担当班	企画班 商工観光班
事業名	地方創生推進交付金事業				

総合計画上の位置づけ	基本目標	予算科目	会計	一般会計	
	戦略目標		款	2	総務費　他
法令根拠条例等			項	1	総務管理費　他
個別計画			目	6	企画費　他

1　事業内容

●移住推進事業
人口減少が進む長崎県への移住対策として、平成28年4月に長崎県と県内市町が協働で「ながさき移住サポートセンター」を設立。地方創生推進交付金（補助率1/2）を受け、運営負担金を支出しました。
【歳出】令和３年度サポートセンター負担金　225,625円
【歳入】地方創生推進交付金　112,000円

＜ながさき移住サポートセンター実績＞
相談件数　4,093件（対前年比/186件増）
移住実績　230組　456名（対前年比/7組増　26名増）
取組内容　就職支援、移住相談会開催、「ながさき移住倶楽部」運営、情報発信など

＜令和３年度佐々町活動＞
オンライン移住相談会：2回　相談件数：2件
ながさき暮らし移住相談会　in東京：1回　相談件数：2件

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費		269,375	228,950	225,625	300,000
財源	国庫支出金	134,000	114,000	112,000	149,000
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債				
	一般財源	135,375	114,950	113,625	151,000

3　指標達成状況

指標名		現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果				目標						#DIV/0!
				実績		－	－	－	－	
成果				目標						#DIV/0!
				実績		－	－	－	－	
成果				目標						#DIV/0!
				実績		－	－	－	－	
成果				目標						#DIV/0!
				実績		－	－	－	－	
成果				目標						#DIV/0!
				実績		－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☐ 目標を達成している ☑ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	2
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☐ 適切である ☑ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
移住推進においては、引続き県と協力し、相談会や情報発信など移住促進に向けた取組を行っていきます。		A	**業務の内容は適切である**

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持 ・ 見直し ・ 廃止

事業評価シート　（令和　3　年度）

事業番号	－ － ◆	担当課	企画商工課	担当班	商工観光班
事業名	地方創生推進交付金事業				

総合計画上の位置づけ		予算科目			
	基本目標		会計	一般会計	
	戦略目標		款	7	商工費
法令根拠条例等	－		項	1	商工費
個別計画	－		目	4	観光費

1　事業内容

●佐々川を中心とした観光や交流イベントの情報発信・交流拠点整備事業
【事業概要】
○ソフト事業（佐々町観光協会補助金）（決算額　3,600,000円）

①観光協会体制強化及び事業拡充
・観光コーディネーターの配置
　企画立案等を行うコーディネーターを配置しました（2名）。

・情報発信活動
　ホームページやインスタグラム・フェイスブックのSNSによる情報発信を実施しました。令和3年度186投稿。
　町のPRと伝育坊を再度知っていただくために、クリアファイルを作成し、町内全世帯に配布しました。。
　ランチが食べられるお店と、スイーツ販売店が分かる「佐々町ランチ＆おやつマップ」を作成しました。
　町内の桜のスポットが分かる「佐々町さくらマップ」を作成しました。
　観光協会通信の発行。4月に8号、9月に9号、12月に10号、1月に11号を発行しました。

・フォトコンテストの開催
　フォトライブラリーを獲得することを目的として、令和3年7月1日から令和4年6月30日までの4シーズン開催しました。令和３年度は夏、秋、冬のコンテストを実施しました。11月26日に役場で夏の表彰式を実施しました。
　※応募数　夏60点　秋38点　冬49点

・イベント出展
　10月30 、31日の2日間で開催された西九州させぼ広域都市圏主催の「かっちぇてアイラブ西九州フェア」に参加し、町内の飲食店やお茶園、その他スイーツ等の事業者より商品を集めて販売しました。
　11月14日文化会館で開催された佐々町商工会商業部会主催の「サザンフェスおさんぽマルシェ」に出展しました。
　12月12日町民体育館で開催された、県内外からの参加者が1000人を超える「拳心旗空手道大会」に出展しました。

②オリジナル商品の開発
・お茶のセット商品の開発
　昨年度開発した「佐々三茶三葉」を手に取りやすい価格ながら、かわいらしさとギフト感を損なわず、ちょっとした手土産にしやすい商品にした「佐々三茶三葉2nd」を開発しました。

・佐々伝育坊もなかの開発
　町内の菓子店と一緒に共同で佐々町の新しい銘菓「佐々伝育坊もなか」を開発しました。

○ハード事業（佐々駅舎改修工事）（決算額　36,498,000円）
　佐々駅舎をリノベーションし、「佐々駅舎交流センター」として、 テナントスペース・交流スペース等の整備を行いました。

2　コスト　（単位：円）

区分		R元決算	R２決算	R３決算	R４予算
事業費			5,479,853	40,098,000	4,000,000
財源	国庫支出金		2,731,000	19,300,000	2,000,000
	県支出金				
	その他特定財源				
	地方債		1,300,000	15,700,000	
	一般財源		1,448,853	5,098,000	2,000,000

3　指標達成状況

	指標名	現状値（令和元年度）	単位		R3	R4	R5	R6	R7	達成率
成果	観光協会主催イベントの参加者数【総合戦略】【単】	0人/年	人	目標	3,000/年	3,000/年	3,000/年	3,000/年	3,000/年	5%
				実績	147	－	－	－	－	
成果	観光協会ＳＮＳフォロワー数【総合戦略】【累】	56人	人	目標	－	－	－	－	1,500	101%
				実績	1,508	－	－	－	－	
成果	佐々町観光物産・交流センターの利用者数【総合戦略】【単】	8,174人/年（現センター分）	人	目標	13,174/年	13,174/年	13,174/年	13,174/年	13,174/年	34%
				実績	4,486	－	－	－	－	
成果	佐々町観光物産・交流センターの収益増加額【総合戦略】【単】	0千円/年	千円	目標	1,500/年	1,500/年	1,500/年	1,500/年	1,500/年	84%
				実績	1,255	－	－	－	－	
成果	特産品の新商品開発件数【総合戦略】【累】	0件	件	目標	－	－	－	－	9	22%
				実績	2	－	－	－	－	
活動	観光協会事務局の民間への移行【総合戦略】	－	－	目標	－	令和4年度以降	－	－	－	－
				実績	0	－	－	－	－	
成果	観光協会主催イベント数【総合戦略】【累】	0件	件	目標	－	－	－	－	6	17%
				実績	1	－	－	－	－	

4　評価及び全体総括

評価の視点		項目	判定
妥当性	・事業根拠の再確認 （住民のニーズ、法令等など事業継続の必要性はあるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	3
	・意図の適切性 （住民のニーズに対して、意図が適切であるか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
	・自治体関与の必要性 （自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか）	☑ 妥当である ☐ 検討の余地がある ☐ 検討の余地が多い	
有効性	・意図の達成度 （評価指標や意図をどの程度達成しているか）	☑ 目標を達成している ☐ 目標をやや下回った ☐ 目標を大きく下回った	3
	・対象の適切性 （意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・手段の適切性 （意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
効率性	・業務の効率化 （業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか）	☑ 効率的である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	3
	・投入コストの適切性 （投入するコストは適正か、削減の余地はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	
	・財源確保の適切性 （受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか）	☑ 適切である ☐ 改善の余地がややある ☐ 改善の余地が多い	

今年度の振り返り（全体総括／成果・評価・今後の方向性・反省点等）	評価の結果		
観光協会コーディネーターも2年目となり、いろいろなところで声をかけられることが増えてきました。SNSフォロワー数も目標に達しましたが、今後も引き続き情報発信を進めていきます。佐々駅舎交流センターが完成しましたが、運用については、観光情報発信、地域交流の拠点となるように運用を進めていきます。		A	業務の内容は適切である

5　今後の方向性

☐	事業拡大・費用拡大
☐	事業拡大・費用維持
☐	事業拡大・費用縮小
☑	事業維持・費用維持
☐	事業維持・費用縮小
☐	事業縮小・費用縮小
☐	休止
☐	終了廃止

委員会意見
特記事項なし
委員会評価
現状維持　・　見直し　・　廃止